

審査論文要旨（日本文）

論文提出者氏名： 月森 彩加

審査論文

題名：Effect of (1→3)- β -D glucan false-negative results on the outcome of critically ill patients with catheter-related bloodstream infection by candidiasis

（(1→3)- β -D グルカン偽陰性がカンジダによるカテーテル関連血流感染症の重症患者の転帰に及ぼす影響）

著者：Ayaka Tsukimori, Itaru Nakamura, Akihiro Sato, Hiroaki Fujita
Takehito Kobayashi, Shinji Fukushima, Hidehiro Watanabe,
Tetsuya Matsumoto

掲載誌：東京医科大学雑誌 78 (1) (2020年掲載予定)

（審査論文要旨：日本語論文の場合 1,000 字以内・英語論文の場合 500 words）

【背景と目的】

血清 (1→3)- β -D グルカン (BG) は、侵襲性真菌感染 (IFI) の推定診断に使用される。しかし、BG は様々な要因で偽陽性と偽陰性となり、依然として懸念されている。この研究は、BG 偽陰性の結果が、侵襲性真菌感染 (IFI) に関連するカテーテル関連血流感染 (CRBSI) の予後と 30 日間の死亡率にどのように影響するかを検討した。

【対象および方法】

2009 年から 2016 年に日本の第三次病院に入院したカンジダ血症の成人患者 107 人を遡及的に研究した。これらの患者のうち、35 人はカンジダにより確定診断または可能性の高い CRBSI と診断され、血液培養陽性が研究基準を満たす前に BG 検査を実施した。患者の臨床的特徴、危険因子、中心静脈カテーテル (CVC) の留置時間、および 30 日死亡率に関連する抗真菌療法を開始を主な結果として調査した。

【結果】

BG テストを実施した 35 人の患者のうち、11 人 (31.4%) が CRBSI の可能性がある 2 人を含む BG 陰性であり、24 人 (68.6%) が CRBSI の可能性がある 1 人を含む BG 陽性であった。CVC 除去までの平均時間は、BG 陰性患者と BG 陽性患者でそれぞれ 2.44 ± 0.87 日と 1.77 ± 0.53 日であった。グループ間でベースライン特性または危険因子スコアに有意差は認められなかった。ただし、BG 陰性患者 (63.6%) と BG 陽性患者 (29.2%) の 30 日間死亡率は有意に近かった (p 値 = 0.08)。

【結論】

BG テストの結果が陰性であっても、特に IFI が疑われる患者では、各患者の特性を考慮し、直ちに治療を開始する必要があることを示していた。